今日のみ言葉 210 2011.12.14

「私を信じる者は死んでも生きる」

(ヨハネ福音書 11 の 25~26)

イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。 わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、 決して死ぬことはない。このことを信じるか。」

Jesus said to her, "I am the resurrection and the life. Those who believe in me, even though they die, will live.

この主イエスのひと言は、私たちが抱える様々の問題の究極的な解決を指し示すものである。 2011年は日本にとって極めて大きな出来事が生じた。東北大震災、それに伴う原発の大事故で ある。現在も続いているさまざまの苦しみは、人の心に深く傷を与え、また癒えることのない悲しみ を持っている方々も多い。

そして福島原発の事故においては、福島の緑豊かな大地にとりかえしのつかない放射能汚染という痛ましく深い傷を残したのである。外なる自然や大地一とくに原発の近くは放射能によって汚されて、何十年経っても元通りにはならない可能性が高い。

こうした今なお癒されることのない心身の傷を本当にいやすもの、それがこの聖書の言葉にある。 そのような苦しい状況にあって人の心に本当の力を与え、立ち上がらせることができるものこそ、必要なことである。

現状がなかなか変わらなくとも、その苦しい状況に打ち倒されない力こそ必要であり、その力があれば目前にある困難な問題に対処していく道を求めていく気力が与えられるからである。。

これは東北や福島で被災を受けた人たちに限らず、重い病で日夜苦しみにある人、家庭や職業の問題、あるいは飢えや支配者の迫害などによるで耐えがたい状況にある数知れない人たちにすべてあてはまることである。

その力こそ、ここに言われている、死にたるものをも復活させる力であり、人間の力ではない天よりの力であり、それを内に宿す神の力である。

そのような力を受けるために何が必要なのか、それは単純である。

キリストが神の力を持っていて(神の子であるということ)、私たちの心の最も奥深い問題である心の罪を赦し、清めて下さるお方だと信じるだけで、力を与えられる。

その力によって私たちはあらゆる問題、最も強い力である死の力にもうち勝って、神の命一永遠の命を与えられると約束してくださっており、そのことは、また鷲の翼にもたとえられている。

「わたしはあなた方を鷲の翼に乗せて私のところに来させた…」(出エジプト19の4)

私たちも、ただ心からの信仰によってこのような鷲の翼に乗せていただき、困難を乗り越えて神の みもとへと導いていただき、新たな力を日々うけて歩みを続けていきたいと願うのである。

野草と樹木たち

ョツバシオガマ 月山(がっさん 標高 1984m)にて 2010.7.30 (ゴマノハグサ科。この科に属する 野草には、美しい青色の花とそのすらりと伸びる花茎で知られるクガイソウやヤマルリトラオオなど があります)





シオガマギクという高山に多い野草があります。手もとの高山植物図鑑にも 20 種類ほども記載されています。

(徳島県の剣山(1955m)にも、山頂付近の草原帯で、トモエシオガマがあります。)

その中でも、このヨツバシオガマは、名前の ように葉が茎のまわりに4枚、輪生していま す。

高さは、10~40cm ほど、花は赤紫色の美しいものですが、葉もあまりほかの野草ではみられない小さく羽状になって美しいものです。そのため、代表的な高山植物として親しまれているものです。このヨツバシオガマは、本州の中部以北から北海道の高山帯の草原に自生しているものですが、その近縁種である エゾノヨツバシオガマは、北海道から、樺太、千島列島、カムチャッカ、アリューシャンといった厳しい寒さの風土にて生育すると記されています。

この写真のヨツバシオガマは、山形県の北部の標高 2000m ほどの月山で撮影したものです。

右の写真にあるように、緑なす高山帯の草原でこのような可憐な花が咲いているのを見るのは、神の雄大なカンバスに描かれた芸術品のような感じがしたものです。

この野草のすぐ近くの山の斜面には、7月末というのに雪渓が残っていて冬季の厳しい寒さと大量の積雪のことを思いださせます。

一見弱々しく見えるこの植物は、長い冬に耐える強靭さを秘めているのです。 聖書にも、弱いところにこそ、神の力はあらわれるとあります。氷雪に覆われる何カ月を耐え、わずかの夏の間に生育し、美しい花を咲かせていく、これはいかなる厳しい状況にあっても、神の力が働くことによって、人間も、花を咲かせることができるという、私たちへの喜ばしいメッセージが込められていると感じられるのです。(写真、文とも T.YOSHIMURA)